

社  
SHA

楽  
RAKU

神奈川県立川崎図書館 が所蔵する  
全国有数の〈社史コレクション〉を  
さらに活用していただくため、  
社史の使い方や、社史の楽しさ、  
社史情報などをお届けしていきます。

Vol.76

2018/09

今年7月に開催した社史フェア2018では、2017年に刊行された社史225点を展示しました。社史フェアも5回目、今回は高津区に移転してから初開催となりました。会場では、来場された皆様に投票紙を配布して、お気に入りの社史と、そのポイントをコメントとして記入していただきました。

結果、60点の社史に、計150票が投じられました。突出して票を集めた社史はなく、人によって注目するポイントが様々であることがわかりました。今回の「社楽」では、投票結果をご紹介します。

なお、コメントは読みやすくするために原文の一部を整えたものもあります。

●  
1位は明治ホールディングスによる『明治グループ100年史』でした。コメントには「100年という歴史に対して俯瞰した視点とそれぞれの商品をクローズアップしたの視点がバランスよく配置された読み応えのある社史である。商品写真、広告写真、図表など、どのページを見ても発見があった。コラムも楽しい。」「身近な商品を多くの写真つきで掲載していたので読んでいて楽しかった。」「商品の歴史がわかりやすく

て楽しかったです。カラーでとてもよみやすかったです。」「スタンダードな内容だが資料が充実している。」「などの声がありました。

2位は『日本ファイルン株式会社100周年記念誌』。2016年刊行の日本語版は昨年の社史フェアでも展示しましたが、英語版、年表が加わって箱に入り3冊組のセットになりました。

「全社員の集合絵が載っていたり、マジメに編集していたりと、社史で遊びをイメージしている。会社全体が楽しそうで、心の底から手に取りたいくなる一冊でした。」

(2面に続く)

# 社史フェア2018、コメント発表

(1面から3ページ)

「今まで見たことのないような斬新な社史だと思います。過去に作成した社史とは想像できない位に変わった物を作るには、並々ならぬ苦労があったと思いますが、製作された社員の方の強い意志が伝わりました。とにかく面白い社史です。」などのコメントがありました。本書は、第12回日本編集制作大賞・企業出版部門の受賞作品です。

3位は「千福」の銘柄で知られる広島県呉市の酒造メーカー・三宅本店が刊行したA3版の写真集『MIYAKEHONTEN 160YEAR SEMPUKU 100YEAR』です。

「フォトブックのような構成で言葉をつかわず、メッセージをつたえていたのが非常に興味深かった。」「写真の配置と文字のバランスがよい。版型が大きく、目につきやすい。社史には珍しいサイズ。」「デザイン的にも印象的だった。A3という大きさ、写真のつこよさ、すべてがこれまでの社史とは違い斬新さを感じた。」などです。こちらは第59回全国カタログ展の「経済産業大臣賞」受賞作品です。

4位は3点あります。

まず『集英社90年の歴史』は「写真や資料が豊富。また、本や雑誌という身近な内容なので大変興味が持てました。つい見ずにページを送りがちな年表も、文字の大きさと工夫され、読みやすい配慮をされていると思います。」や「なじみのある本が、どういう風に作られたのか歴史とともに会社の背景も理解できるところが良いと思います。」「出版社の社史だけあって、コンテンツやページレイアウトなど一般企業では出さない味がある。600頁あっても最後まで読みたくなる社史でした。」など。

明太子でおなじみ、博多の『ふくや70周年史』には「第4章 人情中洲」〈特別編集めんたいぴりり ふくやのとつておきの話 聞いちやりい!〉などを入れ地域色豊かな構成となっており、ゆつくりと読んでみたい一冊である。」「視覚的に目に飛び込んでくる明太子のパッケージのようなデザインの表紙。章ごとに色分けされ、創業前夜から描かれているドラマチックな展開にも心をゆさぶられました。」「歴史を感じる。物語を読んでいよう感じが好き。」など。



お笑いなどの『吉本興業百五年史』は、「厚さがすごいけど軽い。さすが〈お笑い〉の軽やかさです。そして、〈読もう〉と思う楽しさが伝わってくるものでした。」「圧倒的なボリューム、ビジュアルの面白さ、芸能史としての側面。」「見て楽しい、読んで楽しい。新書判で手軽に読んでみたい。」などです。

順位付けを目的にした投票ではないので、順位の発表はここまでにしておきます。以下、投票用紙に書かれたコメントを順不同にご紹介します。

北海道の『とかち謳歌 帯広信用金庫創業百周年記念誌』：「信金と、とかちの人々の生き方が丁寧に書かれています。写真がずるいほどによかった。」

— 同じ函に収められていた、2016年刊行の『十勝あるき之図景 総集編』も高い評価を受けています。



河合楽器が90周年を記念して刊行した『響け、世界へ。』：「初代、2代目、3代目と連綿と受けつがれる心意気を感じた。通常、社史は網羅性と資料性を重視しがちかと思いますが、河合楽器のオリジナルテイにうまくフォーカスしながら上記の点もふまえて読みごたえのある形としてまとまっていました。」

『JR西日本30年史』：「章のまとめ方がよかった。「負」の歴史・事故もきちんと書いてあり、後世に伝えること、安全に対する意気込みを感じられた。」

『JR九州30年史』：「JR各社ともつくりは似ていますが、デザインや色使いから、JR九州の30年史が明るさを感じました。根っこは一緒の会社でも土地柄なのか社風なのか事業構成の違いなのか、雰囲気はそれぞれに特徴が出るのだなと感じました。」

— JRは他にJR四国、JRシステムが30年史を刊行していて、その全てに票が入っていました。

鹿島建設の米国法人『米国鹿島50年記念誌』：「表紙をわざわざ白黒のマット調にしたのがシブくて、なかなか良い。」

日新電機の百年史『挑戦の起業家精神』と別冊の『挑戦者たちの軌跡』：「ビジュアルで魅せる年表や、35のエピソード毎の紹介記事がとても読みやすかったです。「社歌制定秘話のエピソードなどとても面白く釘付けになりました。」

攪拌機などを製造する『プライミクス株式会社90周年記念社史』：「洗練されたデザインが会社の事業の内容を社史つぼく伝えることなく、高級な雑誌調のイメージが好きです。「社員の日常生活感まで感じられ、あたたかい社風を感じさせてくれた。社員募集に効果的な社史だと思う。」

— 淡路島産の食材を使った社員食堂が美味しそうでした。

滋賀県を中心に展開するスーパーマーケット平和堂の60周年記念誌『感謝と挑戦』：「マンガで歴史が紹介されていて、分かりやすく見やすい。社員アンケートの結果をビジュアル化していたり、書き込める欄があったりと、かなり工夫されていて読みやすかったです。」

(3面から続く)

さまざまな容器を製造する『東洋製罐グループ100年史』：「100年という長い歴史の中、巻頭で創業者の生いたちを特集して記載していたことに感動しました。原点に立ち返るとても良い構成だと思います。」

果物等の包装を手がける精工の『未開封の包装史 青果包装100年の歩み』：「カバーデザインに感動。袋がついているかと思いきや、印刷上での錯角とは！裏のプラマークまでこつこつといて素晴らしいです。」「装丁がおもしろい。包装紙の図版を見るのが楽しい。」

宮城県に本社を置く『河北新報の百二十年』：「東日本大震災を地元新聞社の社史の中にどのように載せているか興味があつたが第一部に約70ページ掲載、新聞社としての報道の立場をうまく表現していた。」

霊柩車に関する事業を手掛ける東礼自動車の『ご遺体の尊厳のために』：「霊柩車の発展、多くの災害にいかに取り組んだか、普段我々が決して知ることのできない〈事故・災害搬送〉というものを詳しく記録している。貴重な写真も多く、じっくりと読んでみたい。」  
「遺体の搬送という仕事を紹介する面を持つ資料だと思つたからです。事故等での記録が胸に迫ります。」

— 霊柩車の変遷、事故の対応などがまとめられていて、業界史としても役に立つ一冊です。

群馬県の『上毛新聞社130年史』：「装丁に創刊号を用いて、デザインとして使用している点が、本としておもしろいと思いました。」「見た目だけではなく、中身もしっかり書かれていてよかつた。デザインや読みやすさだけにならず社史の質にも目を向ける会社が増えるとうれしいと思う。」

公園の遊具製造などの『サカエのあゆみ』：「デザインが凝っていて、読みたいと感じた。社風が伝わつた。」「造本、デザイン、内容の全体にわたつて丹念に作り込まれ、会社及び仕事への愛着が感じられました。」

— 表紙見返しが芝のような手触りでした。  
不動産事業や映画興行を行っている『東京楽天地80年史』：「昔の施設を写真で見られたのがよかつた。無くなつた理由が書いてあるのもよかつた。」

『昭和シェル石油30年史』(2冊組)：「カバーがとても目立っている。ロゴの色に合わせ、昭和シェル石油とリンクしている(スピンと花ぎれも)。本文組みがシンプルで理解しやすい。」

— 対談をメインとした構成で、川崎の製油所に関する内容も多かつたです。

●  
いかがでしょうか。紙面の都合もあり、ご紹介できなかったコメントも多数あります。ぜひ、当館でお気に入りの社史を探してみてください。

(企画情報課・高田)

●お問い合わせ先 神奈川県立川崎図書館 企画情報課

213-0012 川崎市高津区坂戸 3-2-1 かながわサイエンスパーク 西棟 2F

電話：044-299-7826 FAX：044-322-8878

<http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/index.html>